

高齢化社会に対応した教材開発（第1報）

——祖父母に対する生徒の意識の実態——

三宅 美与子・小林 京子

今日、わが国は急速なスピードで高齢化が進み、それに関わるさまざまな問題が生じ、その対応に大わらわの現状である。そうした社会情勢のもとで、新教育課程の改訂において、男女が共に学ぶことができる家庭科教育において、家族や家庭の生活についてより多く取り上げられるようになったことは意義深いことである。

本研究では、まず生徒が身近な祖父母に対してどのような意識や関わりを持っているか、アンケート調査した。結果、祖父母との関わりは希薄で、祖父母以外の老人との接触も少ないことがわかった。また、若い間は親との同居も望まない傾向にあった。高齢者との関わりの希薄な生徒たちに、高齢者に関わる諸問題を教材化するには、自分たちの老後について考えていくことでもあるという認識を持ち、さらに自分自身の生き方の問題と結び付けられるような内容にしていくことが大切と考える。

1. はじめに

新教育課程の改訂に伴い、家庭科教育の中で家族や家庭の生活についてより多く取り上げられるようになった。家族をめぐるさまざまな問題の発生が広く深刻化している今日である。その問題の一つに高齢者の介護や福祉の問題がある。

今まで家庭科教育がどちらかといえば、衣生活・食生活の学習において、製作や実習を通して作品の完成等“もの”中心になりがちであった。これからは、男女が共に学習し、協力し合って家庭生活を営む視点にもウエイトを置くとき、家庭の中の“ひと”つまり人間の問題としての関心を高めることは大切なことであり、家族についての学習の増加は意義深いものと考えている。

今日わが国は急速なスピードで高齢化が進み、1991年総務庁による高齢者統計（'91.9.14）¹⁾によれば、65歳以上の人は総人口の12.5%で過去最高を示している。さらに、2020年には25.2%と予測し、15歳～64歳の2.4人に1人の高齢者数の割合になるとまでいわれている。高齢者と家族の関わりについてみても、尊孫に恵まれる機会、あるいは四世代家族が見られるのもまれでなくなってくる。また、痴呆性老人も急増している。

こうした現況の中で、高齢者の看護を誰が行うのか、社会問題に発展してきている。総務庁の調査²⁾によれば、“老人にとって一番大切なものは何か”に対して各国とも「家族・子供」が第1位を占め、老人にとっては、いつも子供や孫と一緒に生活できるのが良いとする「同居型」思考が強い。しかし、高齢者と子家族との関係においては、価値観の多様化により世代間のズレがあり、新たな問題も生じてきているのも否定できない。

このように、高齢化社会に入っている今日、10代の若者がこうした問題を自分とは関わりがない、あるいは関わりの薄いこととして捉えるのではなく、この問題についての学習は、今日の高齢者の問題のみならず、親や自分の老後について考えることにもなることに気づいてほしいと願うものである。

そこで、本研究では、中・高校生の身近に存在する祖父母に対しての意識および関わりの状況を

調査によって把握し、今後の学習において、どのように共に考えていけばよいかの基礎としたいため取り組んだ。

2. 調査方法

- (1) 時期 1992年6月
- (2) 対象 広島大学附属福山中学1年生125名（男子62名、女子63名）
同3年生110名（男子49名、女子61名）
同高校2年生232名（男子136名、女子96名）
- (3) 内容 高齢化社会に関するアンケート（資料1）
- (4) 方法 集団的アンケート

3. 結果と考察

(1) 生徒を取り巻く状況

図1—1に示した家族構成数をみると、どの学年も4・5人が多く、これらを合わせた割合は、

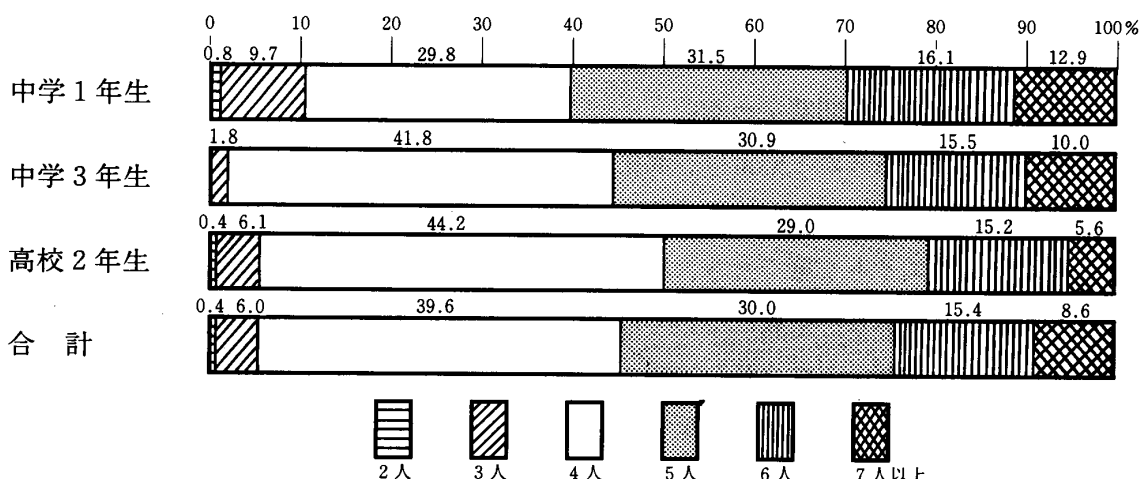


図1—1 家族構成数

全体平均で約70%を占め、7人以上は全体平均8.6%である。兄弟姉妹の人数は、図1—2に示すように1人っ子の割合が、中学1年生では13.8%と他の学年に比べて高い（中学3年生2.7%、高校2年生6.5%）。これは子どもの数が減少してきている社会動向と一致した結果である。

次に祖父母との同居・別居状況（図1—3）をみると、父方の祖母と同居している（していた）割合が最も高く、全体で26.5%を占め、次いで父方の祖父21.7%、母方の祖母9.7%、母方の祖父7.5%という順である。祖父母両方との同居も考えられるので、全体としてみると、同居している（していた）の割合は38.5%であった。これは、前回の調査（1987年7月）³⁾結果（全体平均9.2%）に比べかなり高い。また、「会おうと思えばいつでも会える、よく会う方である」を加えると、父方・母方の祖父母共に50%近くあるいはそれ以上を占めている。しかし、学年進行に従って減少傾向にあった。これは、祖父母の健否状況とも関連していると思われる。図1—4に示すように「健康である」祖父母の割合は、学年進行と共に概ね減少しており、それだけ出会う回数も減

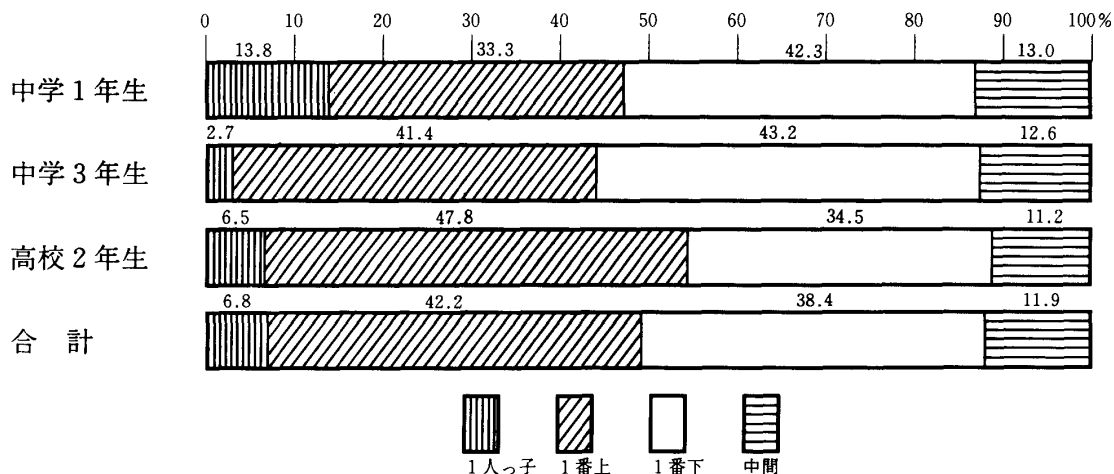


図1-2 兄弟関係

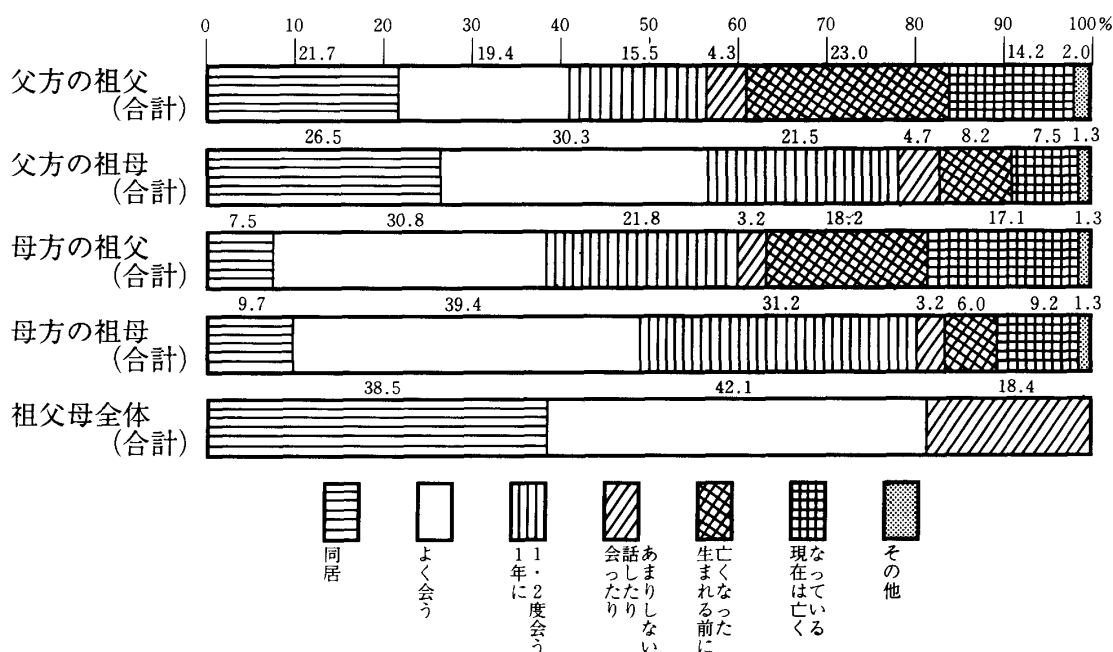


図1-3 祖父母との同居・別居状況

少するということになる。また、父方・母方共に祖父に比べて祖母の方が「健康である」割合が高く、それだけ祖母との関わりの機会が祖父より多くなっている。しかし、前回の調査³⁾と比べ、特に祖父では健在者数の割合が高くなり（前回の全体平均は約35%）、死亡者数の割合が下がっていた。このことは、社会情勢と傾向を同一にし、平均寿命が伸び、高齢化が進んでいることを物語るものである。

(2) 生徒と老人との交流

① 祖父母からのサービス

図2-1から窺えるように、特に交流の高い項目は、「お年玉・おこづかいをもらう」であり、父方・母方共に祖父よりも祖母からのサービスの割合が高い。他の項目は、いずれも男女平均で40%以下であった。「看病をしてもらう」が最も低いが、これは生徒たちが病気になることが少ないことであり、予測された結果である。また、「お年玉・おこづかいをもらう」以外は、ほとんど

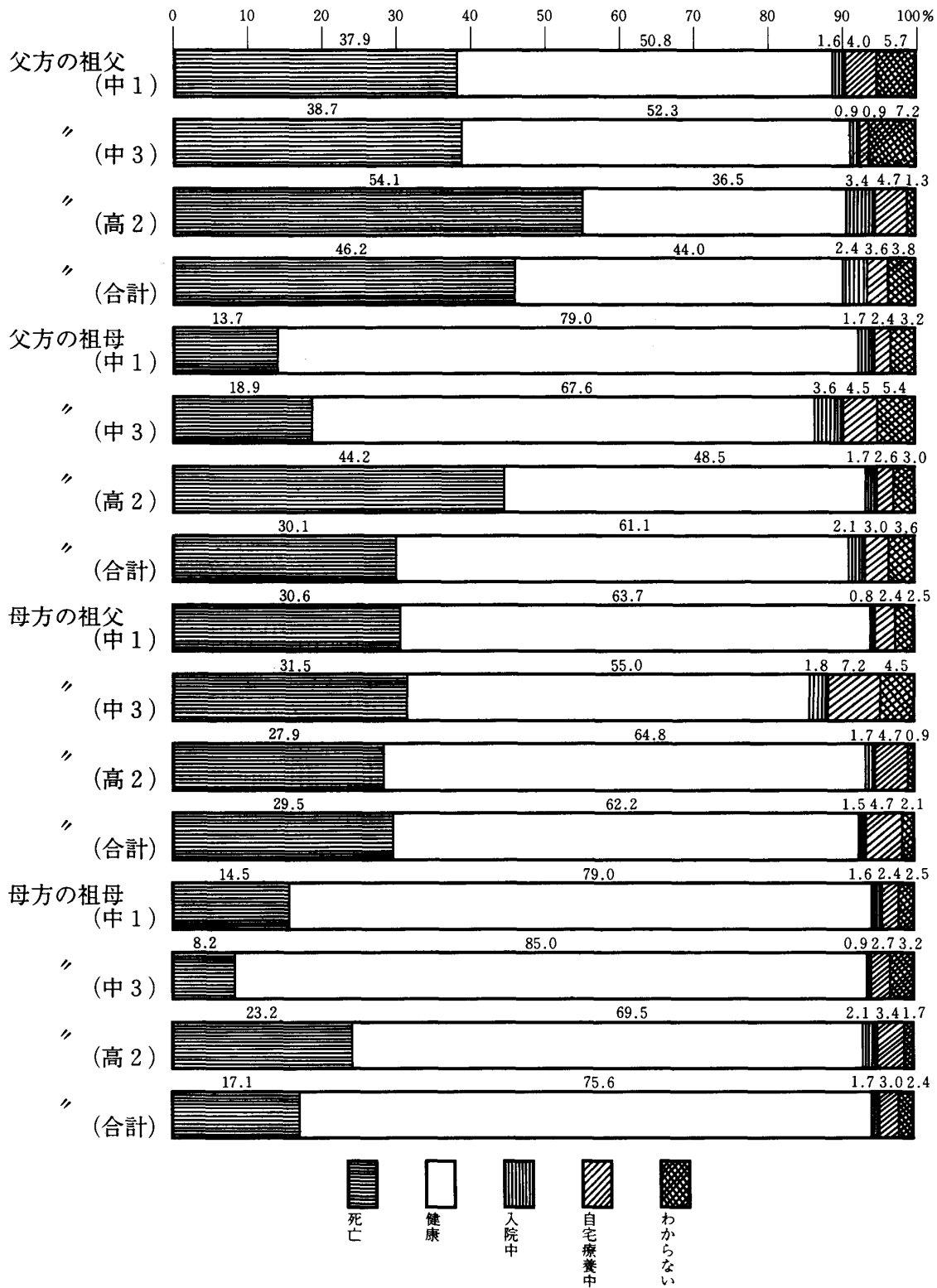


図1-4 祖父母の状況

女子へのサービスの割合が高い結果であった。

表1には祖父母との同居・別居と祖父母からのサービスの相関を表してみた。やはり、「ほとんど会わない」祖父母からの交流の割合は低い。図2-2には祖父母からのサービスの回数を表している。「たびたび」「ときどき」を合わせると全体平均は約84%で、交流が行われている祖父母との間ではより多くの交流があることが分かる。

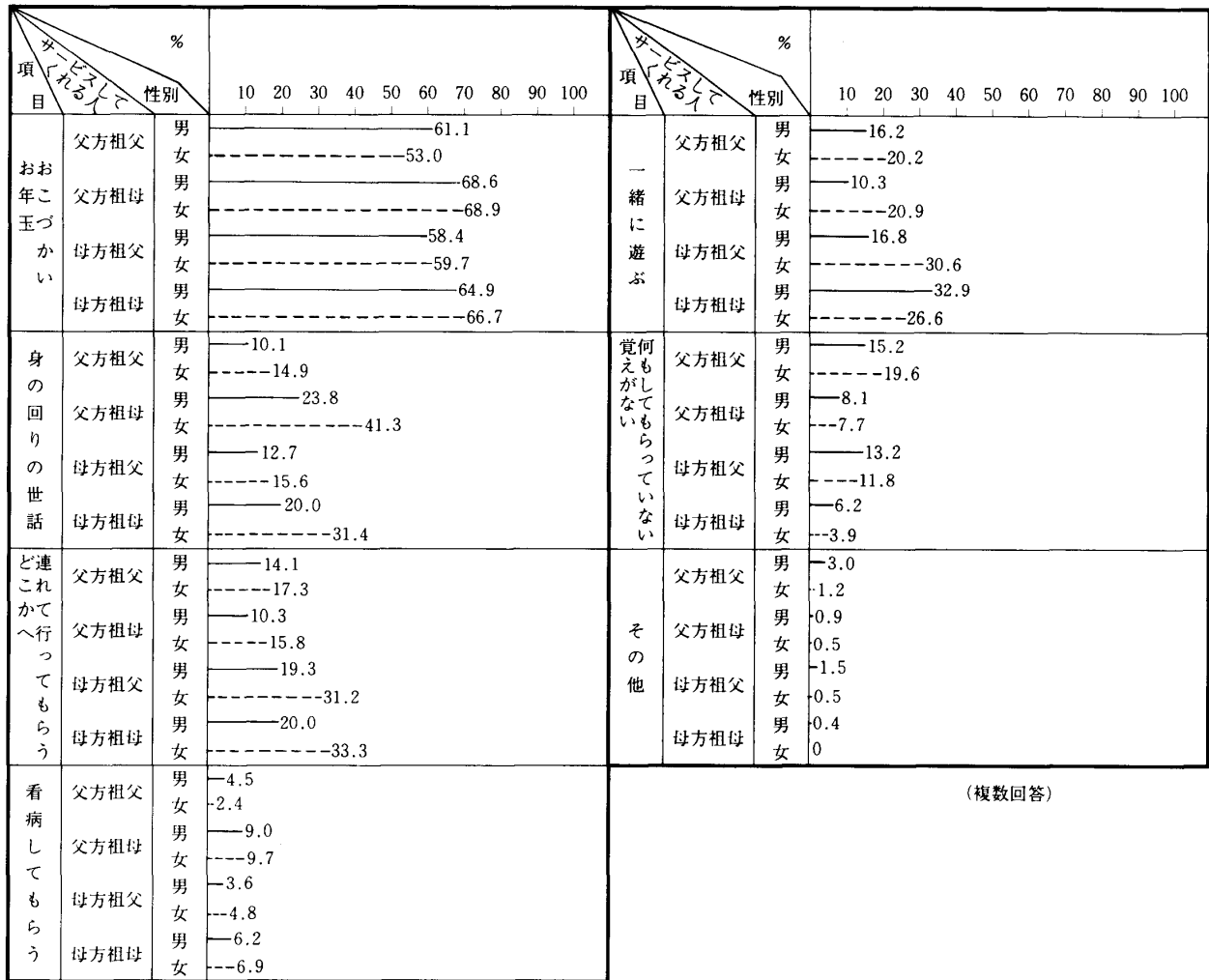


図2-1 祖父母からのサービス

表1 祖父母からのサービス
(祖父母との同居・別居との関わり)

②祖父母へのサービス

次に、祖父母へのサービスの状況を図2-3に示す。いずれの祖父母に対しても交流程度の高い項目は、「手伝い・肩たたき」で、次いで「プレゼントしてあげる」「買物や散歩のおとも」の順である。「看護や身の回りの世話」および「食事作りやふとんのあげおろし」については、大半が10%未満である。男女を比較してみると、全体的に女子の方が高い割合を示している。特に「プレゼントしてあげる」「食事作りやふとんのあげおろし」のサービスについては差が大きく、女子が高い。「看護や身の回りの世話」については、ほとんど差がなく、むしろ若干男子が高い。また、どのサービス項目についても父方・母方共に祖父に対するよりも祖母に対する割合が高く、男女の傾向もほぼ同じであるが、「買物や散歩のおとも」については祖母に対する女子の割合が高い。先の祖父母からのサービスの結果と合わせ考えると女子の方が祖父母と

項目	同居との関わり		同居している	よく会う	ほとんど会わない
	人数	%			
お年玉	人数	177	351	394	
	%	60.2	63.8	52.1	
おこづかい	人数	120	124	55	
	%	40.8	22.5	7.3	
身の回りの世話	人数	66	153	110	
	%	22.4	27.8	14.6	
どこかへ連れて行ってもらう	人数	38	47	17	
	%	12.9	8.5	2.2	
看病してもらう	人数	77	118	131	
	%	26.2	21.5	17.3	
一緒に遊ぶ	人数	11	7	148	
	%	3.7	1.3	19.6	
覚えがない	人数	2	8	7	
	%	0.7	1.5	0.9	
何もしてもらっていない	人数				
	%				
その他	人数				
	%				

(複数回答)

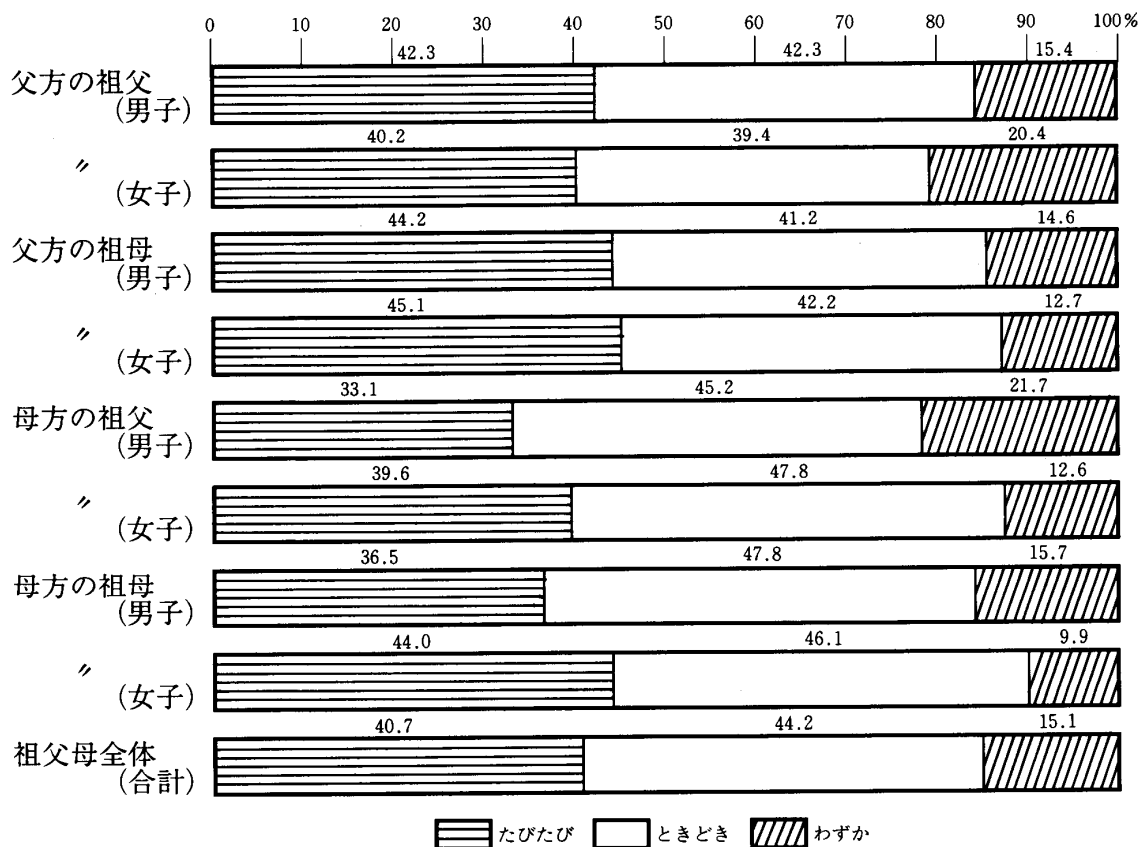


図2-2 祖父母からのサービス (回数)

の相互の交流が多い結果であった。

表2には、祖父母との同居・別居と祖父母へのサービスの相関を示している。「同居している(していた)」、「会おうと思えばいつでも会える、よく会う方」のそれぞれの祖父母に対しては、ほとんど同じ割合を示しているが、「ほとんど会わない」祖父母に対しては、その割合は半減している。

また、図2-4には祖父母へのサービスの回数を示しているが、「たびたび」「ときどき」を合わせて全体平均が約60%で、祖父母からのサービスに比べてかなり低い。この事は、今後の学習で取り上げ、考えさせていきたい点である。

③祖父母以外の老人と接する機会

図2-5は“祖父母以外の老人と接する機会がありますか”という問に対する結果である。「よくある」と答えたものはわずか10%前後である。全体で約70%のものは「あまりない」か「全くない」で、祖父母以外の老人と接する機会がないことが分かる。「ときどきある」と答えたものも、道であいさつを交わす程度であったり、小学校のときの交流会で1、2度会ったことがあるというものであった。

祖父母と身近に接することのできるものが4割近

表2 祖父母へのサービス (祖父母との同居・別居との関わり)

項目	同居との関わり		同居している	よく会う	ほとんど会わない
	人数	%			
プレゼント	人数		102	213	146
	%		38.2	41.4	21.7
手伝い・肩たたき	人数		141	253	198
	%		52.8	49.2	29.5
看護 身の回りの世話	人数		26	52	48
	%		9.7	10.1	7.1
買物や散歩のおとも	人数		61	143	115
	%		22.8	27.8	17.1
食事づくり ふとんのあげおろし	人数		36	46	31
	%		13.5	8.9	4.6
墓参り お祈り	人数		0	0	8
	%		0.0	0.0	1.2
覚えがない 何もしていない	人数		30	40	242
	%		11.2	7.8	36.0
その他	人数		2	5	17
	%		0.7	1.0	2.5

(複数回答)

項目	サービスの対象	性別	% (0-100)										項目	サービスの対象	性別	% (0-100)									
			10	20	30	40	50	60	70	80	90	100				10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
プレゼント	父方祖父	男	21.8										食事と作りのあげおろし	父方祖父	男	2.3									
		女	34.2												女	7.1									
	父方祖母	男	26.6										父方祖母	男	6.5										
		女	38.3											女	13.1										
	母方祖父	男	13.3										母方祖母	男	3.3										
		女	37.6											女	6.5										
母方祖母	男	26.9										母方祖母	男	5.5											
	女	43.2											女	17.4											
手伝い・肩たたき	父方祖父	男	36.2										墓参り・お祈り	父方祖父	男	1.1									
		女	31.6												女	0.6									
	父方祖母	男	41.2										父方祖母	男	0										
		女	45.4											女	0										
	母方祖父	男	32.6										母方祖母	男	0.6										
		女	42.9											女	0.6										
母方祖母	男	40.3										母方祖母	男	1.5											
	女	48.4											女	0											
看身護の回りの世話	父方祖父	男	10.3										覚何えもがしていいない	父方祖父	男	31.6									
		女	7.1												女	25.8									
	父方祖母	男	8.0										父方祖母	男	22.6										
		女	8.2											女	11.5										
	母方祖父	男	9.4										母方祖母	男	29.8										
		女	8.2											女	20.6										
母方祖母	男	8.5										母方祖母	男	22.4											
	女	8.4											女	8.9											
買物や散歩のおとも	父方祖父	男	15.5										その他	父方祖父	男	2.3									
		女	16.8												女	1.3									
	父方祖母	男	18.1										父方祖母	男	2.5										
		女	27.3											女	1.6										
	母方祖父	男	19.3										母方祖母	男	2.8										
		女	18.8											女	0										
母方祖母	男	23.4										母方祖母	男	2.0											
	女	35.3											女	0.5											

(複数回答)

図2-3 祖父母へのサービス

くいるにもかかわらず、実際の交流方法としては、「お年玉・おこづかいをもらう」とか「プレゼントする」といった物質的手段としての交流を除くと予想外に少ない。自分たちの老後について考えるという点、また、高齢化社会の中で多くの老人の生活を支えていかななくてはならない世代であるという点でも、もっと祖父母との精神面、心からの交流を考え、増やし、さらに、祖父母以外の老人と接する機会を積極的に作るなどして、老人に対する、あるいは高齢化社会に対する認識を深めていくことが大切である。

(3) 老人に対する生徒の意識

図3-1～図3-3は、“「老人」という言葉から受けるイメージ、または老人に対する気持ち”、についての調査結果を示したものである。この結果をみると、老人はやさしく、知識が豊富であり、どちらかというとなり活動的で、あまり話は合わないが、一緒にいてやや楽しい、というイメージを持っているようである。男女での差、および祖父母との同居か否かによる差は、尺度値で少し差はあるもののイメージの傾向には差が見られない。尺度値のばらつきは、老人と接する機会の少ない状況のもとでは、対象となっている少ない老人の姿によって描かれているためではないかと思われる。従って、自分の祖父母が健康を害している場合には、不健康であるとか、非活動的で

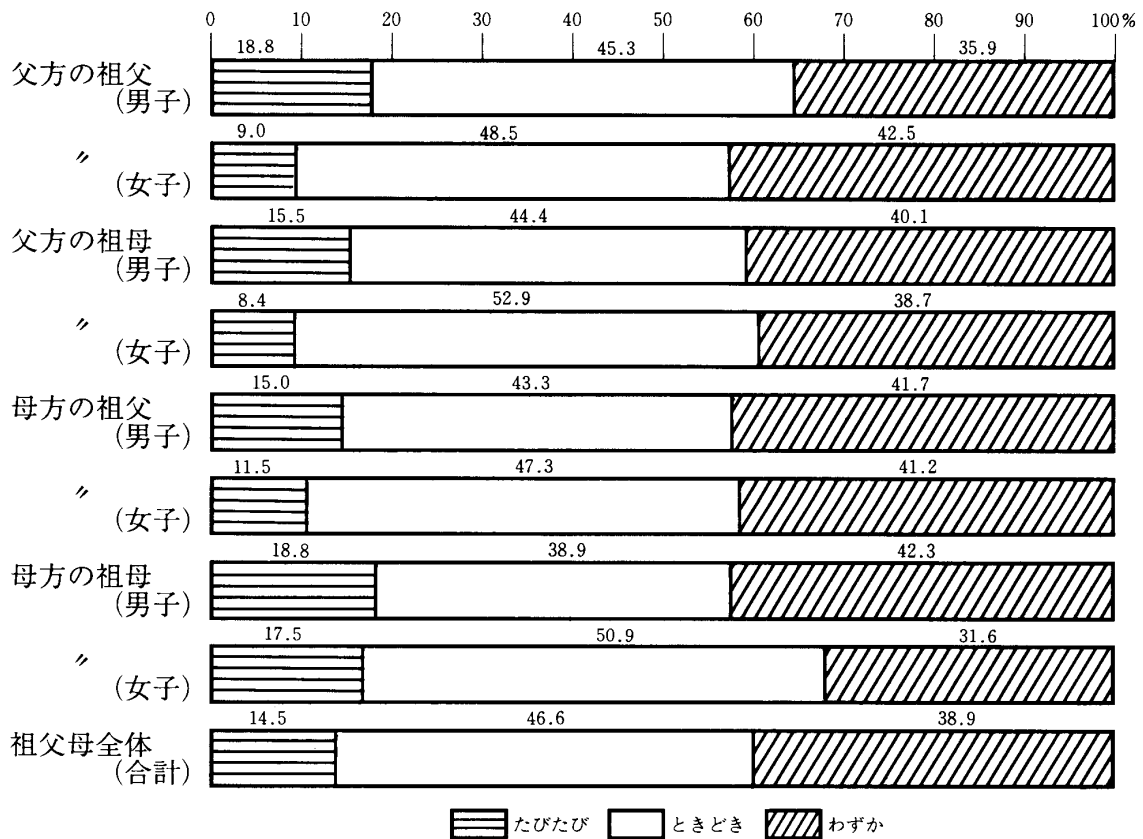


図 2-4 祖父母へのサービス (回数)

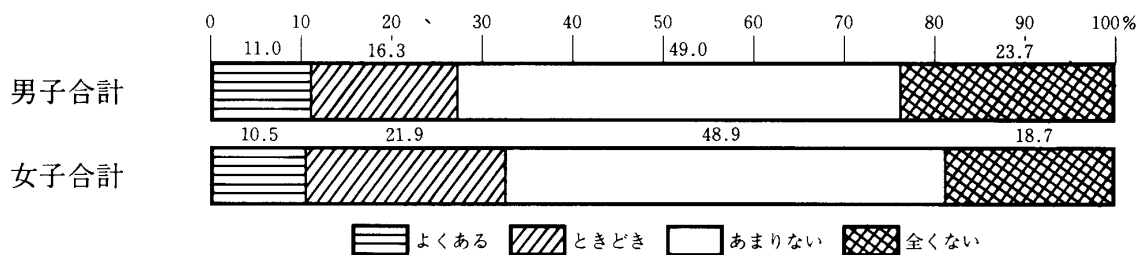


図 2-5 老人と接する機会

あるというイメージが生じている。年齢差によるイメージも同様の傾向であるが、中学1年生の男子は好意的イメージが、高校2年生男子は、非好意的イメージが比較的強い。

祖父母に対する気持ちは、図3-4、および表3に示すように、「自分にとって大切な人で長生きして欲しい」と答えたものが、全体として約75%と高い割合を示している。特に中学1年生女子は約92%と非常に高い。しかし、「祖父母と是非同居したい」というものは、全体平均でわずか約9%で1割にも達していない。「自分との関わりが少ないので深く考えたことがない」「祖父母とは同居したいとは思わない」「祖父母のことは親が考えることで関わりたくない」というものを合わせると全体の約1/4あり、この点も今後の学習の中で取り上げ、考えていく必要がある。また、祖父母との同居か否かとの相関をみると、「同居している(していた)」ものの方が、「自分にとって大切な人で長生きして欲しい」「祖父母と是非同居したい」と思うものの割合が高く、逆に、「関わりが少ないので深く考えたことがない」「同居したいとは思わない」というものの割合が少ない。やはり、日々の生活の中で祖父母のことを考える機会が多いからであろう。

先に見てきた老人に対するイメージとも関わって、老人と接する機会が増えれば、老人に対するイメージも好意的な方に転換していくであろうし、自分にとってさらに社会にとって大切であるという意識も増すと考えられる。

(4) 親との同居・別居に対する意識

図4—1は、親との同居・別居について、自分の立場で考えたとき、親はどう考えていると思うか、さらに、自分が親になったときの各立場での考えを示したものである。

まず、自分の立場から親との同居を考えたとき、中学1年男子はどのライフステージでも、親との同居を望む割合が他のものに比べ高い。独身時代には、中学3年男子と高校2年の男子は約50%のものが別居を望んでいる。女子は概ね同居と別居の割合が同じで約3割前後である。しかし、結婚して子どもがいないときは、中学1年男子の他は、約半数のものが別居を望み、特に女子はどの学年も別居志向が50%を越えている。子どもが生まれてからは、「同居をしたい」がやや増えるが(特に女子では、子どもがいない

時の3倍)男女共に20%未満である。図4—2には、祖父母との同居か否かとの相関を示したが、結婚後において差がみられ、祖父母と同居しているものは同居志向が強い。

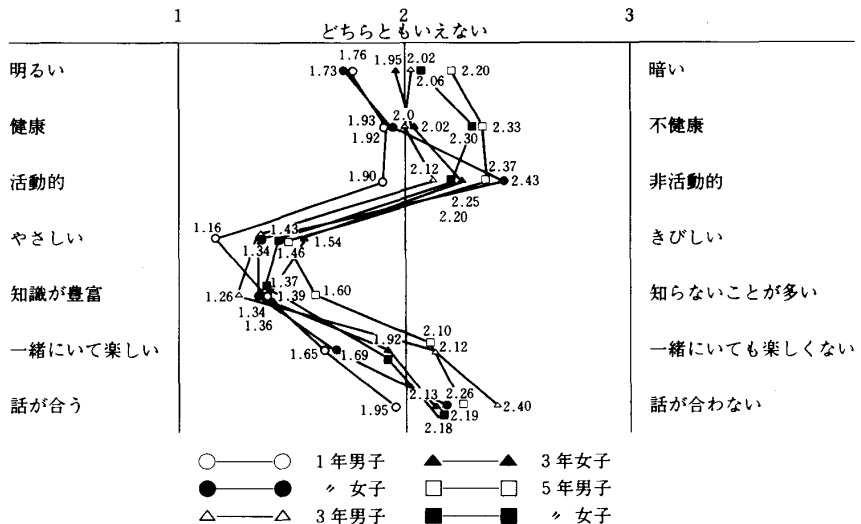


図3—1 老人に対するイメージ

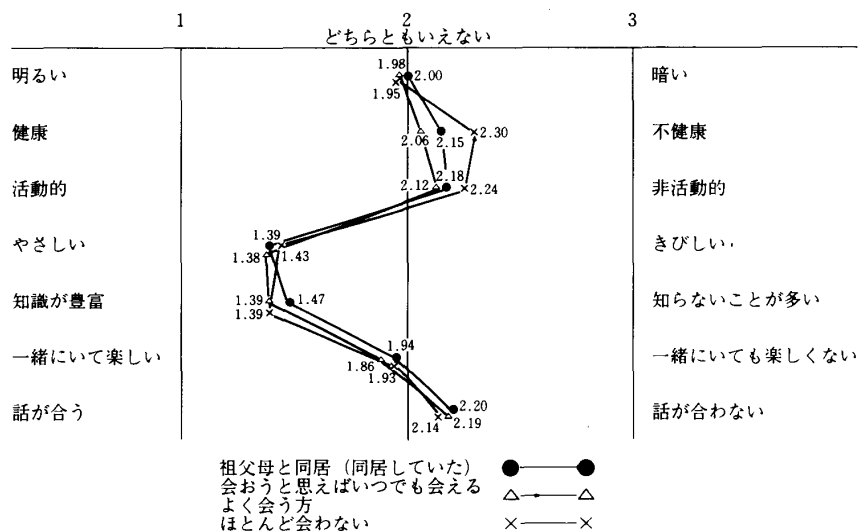


図3—2 老人に対するイメージ(祖父母との同居・別居との関わり)

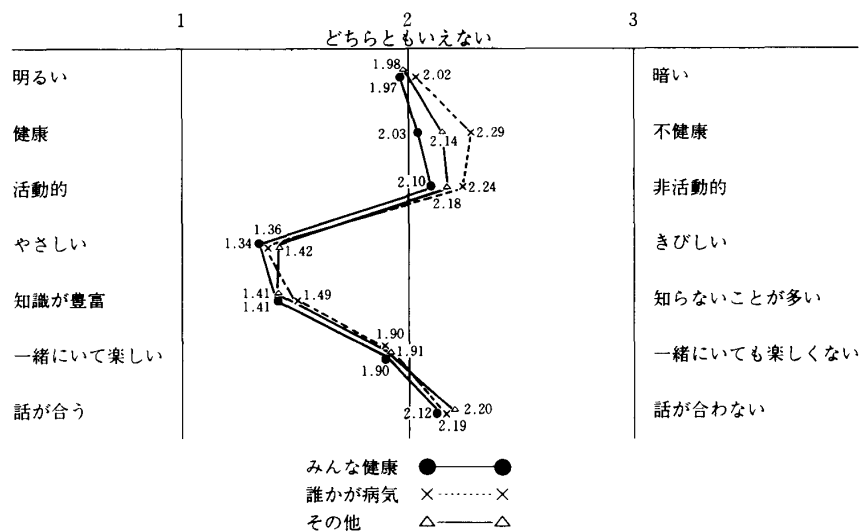


図3—3 老人に対するイメージ(祖父母の健否との関わり)

次に親はどう考えていると思うか、についての結果をみると、「親は同居を望んでいる」と思っているものが非常に多い。特に、親が病気になったり、配偶者が亡くなり一人になったときには同居を望むと思っているものの割合が圧倒的に多く、しかも女子の方が高い。

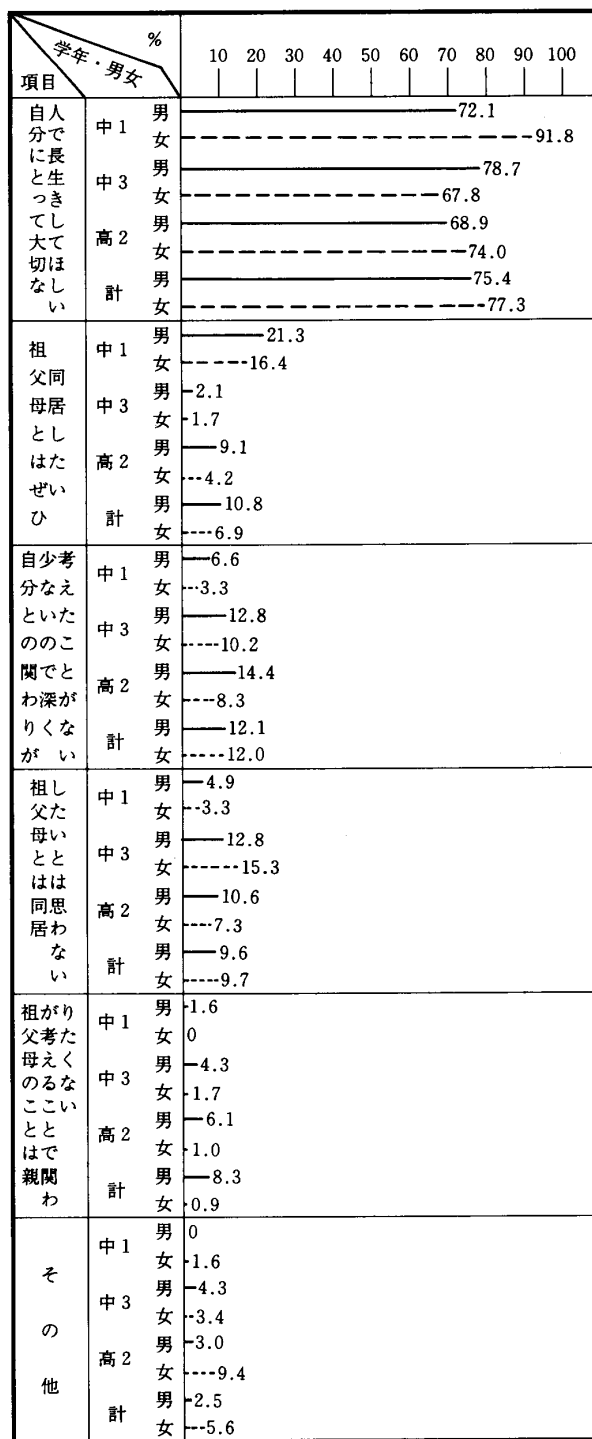
さらに、自分が親になったとき子どもとの同居・別居についての考えをみてみると、健康なときは、学年進行とともに別居志向が高まり、しかも、どの学年でも女子の方が男子に比して高い。病気になったり、配偶者が亡くなり一人になったときには、同居を望む割合が急増する。全体的に別居を望む割合がもっと多いかと予想していたがその予想に反していた。しかし、親の考えを予測した割合よりは低く、やはり、別居を望む割合が親の思いの予測の割合より多い。自分たちは、親との同居を望まないが、自分が親になったときには子どもと同居したいという矛盾したところがみられた。

図4-3は、二世帯家族についての良し悪しについての考えをまとめたものである。男女共に、二世帯家族が良いとする点は、「家事分担の点から」「伝統的な知識の伝達の点から」「病気になったときの看護の点から」をあげ、良くない点は、「生活時間の差が生じやすい」「年齢的に考え方

表3 祖父母に対する気持ち
(祖父母との同居・別居との関わり)

祖父母との関わり 老人に対する気持ち	人数 %		
	同居している	よく会う	ほとんど会わない
自分にとって大切な人で長生きして欲しい	人数 141 % 78.3	人数 156 % 81.3	人数 51 % 60.7
祖父母とはぜひ同居したい	人数 22 % 12.2	人数 13 % 6.8	人数 6 % 7.1
自分との関わりが少ないので深く考えたことがない	人数 19 % 10.6	人数 24 % 12.5	人数 12 % 14.3
祖父母とは同居したいとは思わない	人数 7 % 3.9	人数 29 % 15.1	人数 8 % 9.5
祖父母のことは親が考えることで関わりたくない	人数 6 % 3.3	人数 3 % 1.6	人数 4 % 4.8
その他	人数 9 % 5.0	人数 1 % 0.5	人数 9 % 10.7

(複数回答)

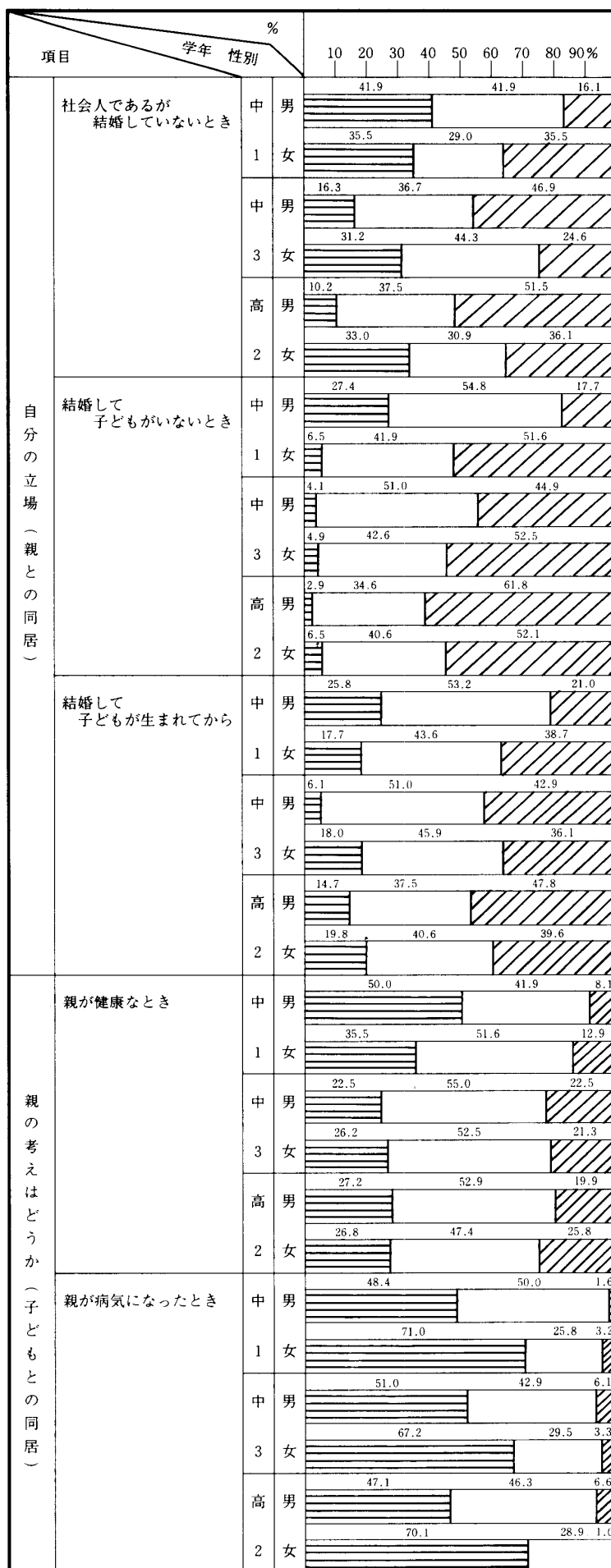


(複数回答)

図3-4 祖父母に対する気持ち

の差が起りやすい」をあげている。助け合いを要する点はよいが、生活のリズムや精神的な面でのことはマイナスの事として考えている。さらに、表4は、祖父母との同居か否かとの相関を示してみた。祖父母と同居しているものは、自分たちの日々の生活と照らし合わせて回答していると考えられる。彼らが、二世帯家族が良いと答えた割合が、別居しているものより低く、逆に良くないと答えた割合が高いのは、そうした現実を照らした上での結果であろう。こうした同居を経験しているものの声を、同居が経験できないものたちに聞かせながら、自分にとっての生き方を考えさせていく授業展開も大切なことであろう。

(5) 家族の機能の変化に対する意識
生徒たちが高齢者の仲間入りをする約50年後の家庭の機能は、現在と比べてどのように変化すると思うか、という問いに対する生徒の意識調査の結果を図5に示す。「子どものしつけ養育」「食事・せんたくなどの家事機能」は現在とほぼ同じと考え、「子どもの人数」は減少し、「世代間の知識・伝統の伝承機能」はやや弱まり、「余暇・休養など安らぎを得る機能」「高齢者の介護機能」はやや強まると考えている。高齢者が増える中で、高齢者を支える若者の数が減り、さらに、世代間の知識・伝統の伝承機能が衰えるという悲観的な意識が窺える。現代のマスコミ等が高齢化社会への対応の一つである、老人介護に関することを強調して報道しているということ



が、生徒の意識にも反映しているのではないだろうか。健康で、明るく活躍している高齢者たちの状況も伝え、展望の持てるようにしていくことが大切と考える。また、そうした社会にしていくために、現在の中・高校生も高齢者の問題を他人事とするのではなく、積極的に自分の生き方の問題として捉えてもらいたい。

4. まとめと今後の課題

以上の調査結果をまとめてみると、生徒の家庭からも、社会の家族の動向と同じく、兄弟姉妹の人数は減少し、健在な祖父母が増えて死亡者が減少しており、高齢化が進んでいることが窺える。いずれかの祖父母と同居しているものは全体で38.5%で、中でも父方の祖父母との同居者が多い。また、会おうと思えばいつでも会える、よく会うところに住んでいるものを合わせると約50%前後である。

祖父母との交流は、祖父母からのサービスでは、「お年玉・おこづかい」で、祖父より祖母からが多い、祖父母へのサービスでは「プレゼントする」や「手伝い・肩たたきをする」で、他のサービスを含め、概ね女子がよくしている。「看護や身の回りの世話をす

る」や「食事作り・ふとんのあげおろしをする」ことはきわめて少ない。さらに、祖父母からのサービスの方が祖父母へのサービスよりも多いし、共に物質的手段によるサービスが多く、精神面・心の交流が少ない。また、別居していてほとんど会わない祖父母との交流は、他の者に比して少ない。こうした、祖父母との関わりについては、気になる点であり、今後の授業の中で、高齢者だけの問題ではなく、中・高校生も含めた、生き方の問題として取り上げたい。

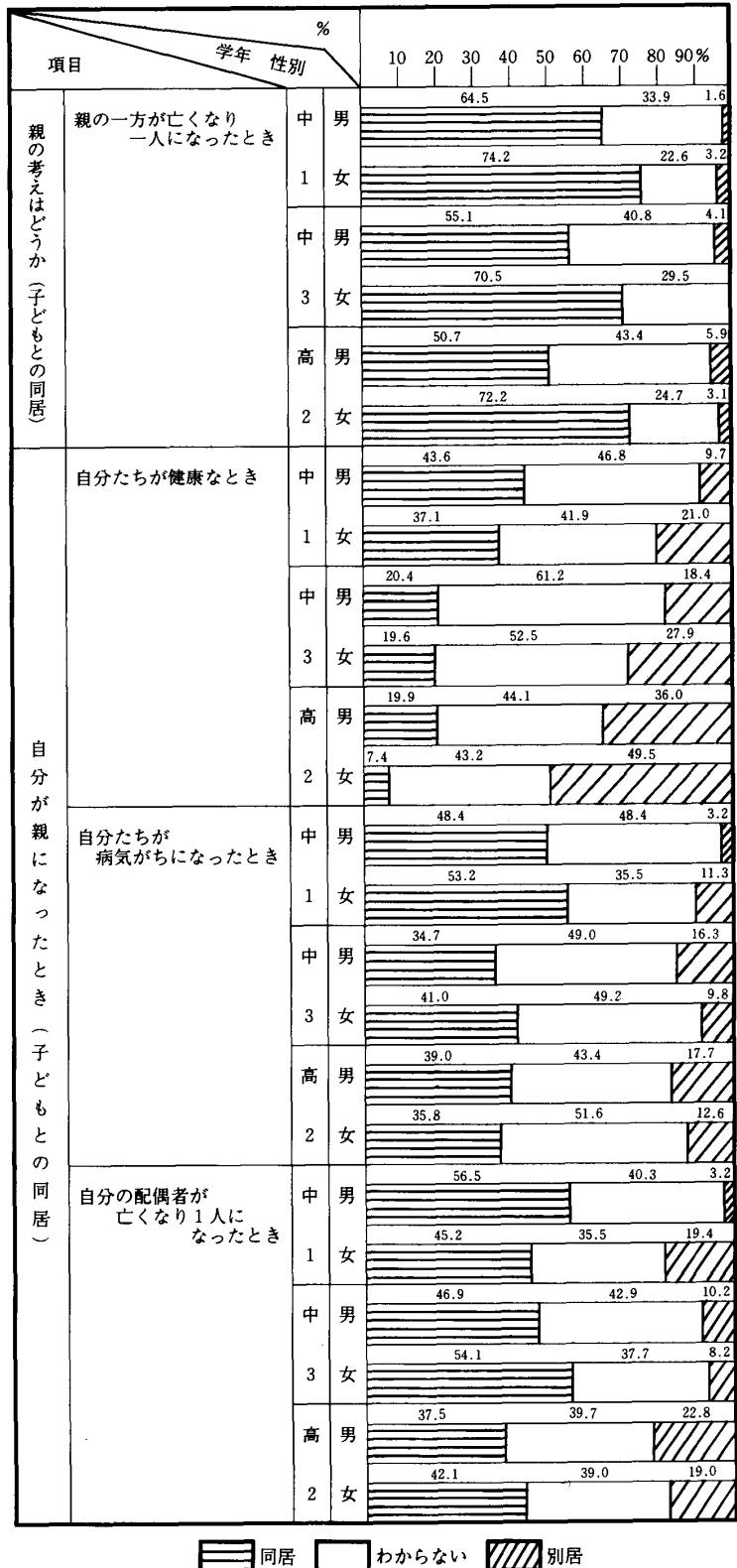


図4-1 親との同居・別居に対する意識

老人に対するイメージは、学年・男女・祖父母との同居か否かを問わず、やさしく、知識が豊富で、やや非活動的で話が合わないが、一緒にいてやや楽しいといったイメージを持っている。しかし、こうしたイメージの程度は、祖父母以外の老人と接することの少ない状況下で、身近な祖父母の姿によって異なってくる。

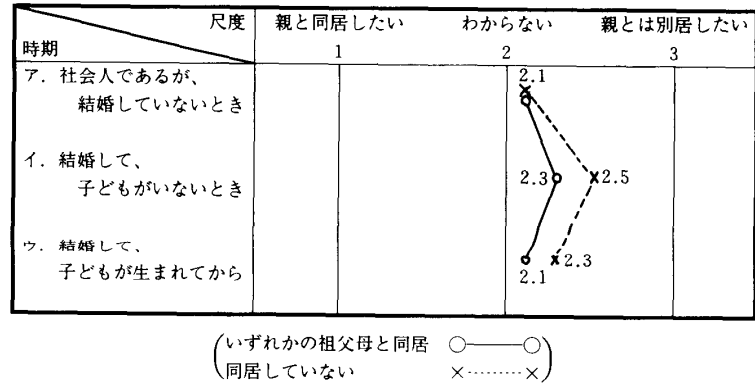


図4-2 親との同居・別居について
(祖父母との同居・別居との関わり)

祖父母に対する気持ちは、自分にとって大切な人で、長生きして欲しいと思っているものが全体の3/4はいるものの、「是非同居したい」というものは、10%未満で1割にも達していない。「考えたことがない」とか「同居したくない」とか「関わりたくない」といったものが1/4に及んでいる。祖父母以外の老人とも接する機会が増えれば、イメージもさらに好意的な方に転じるだろうし、自分にとってもあるいは社会にとっても大切であるという意識も増すであろう。この点、今後の家庭科教育の中に、自主的・積極的にふれあいの場が持てるような機会を考えていく必要がある。

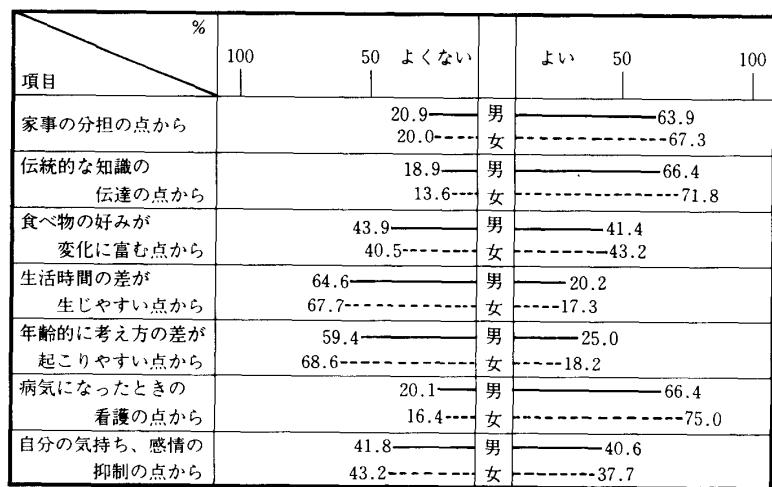


図4-3 二世帯家族に対する考え

表4 二世帯家族に対する考え (祖父母との同居・別居との関わり)

二世帯家族は良くない		内 容	二世帯家族が良い	
祖父母と同居	別 居		祖父母と同居	別 居
40 (21.9)	55 (19.6)	①家事の分担の点から	116 (63.4)	188 (66.9)
33 (18.0)	43 (15.3)	②伝統的な知識の伝達の点から	117 (63.9)	203 (72.2)
80 (43.7)	116 (41.3)	③食べ物の好みの変化に富む	69 (37.7)	127 (45.2)
123 (67.2)	183 (65.4)	④生活時間の差が生じやすい	29 (15.9)	58 (20.7)
119 (65.0)	177 (63.0)	⑤年齢的に考え方の差が起りやすい	34 (18.6)	67 (23.8)
36 (19.7)	49 (17.4)	⑥病気になったときの看護の点から	119 (65.0)	208 (74.0)
70 (38.3)	127 (45.2)	⑦自分の気持ち、感情の抑制	75 (41.0)	107 (38.1)

実数 (%)

親と子の同居・別居に対する考えは、多くの者は、親は子との同居を望んでいると思っているが男子は、別居志向が強く、女子は結婚して子どもがいないときは別居志向 (50%以上) で、子どもが生まれるとやや同居したいものが増える。しかし、20%未満である。また、祖父母と同居している (していた) ものの方が同居志向が25%あり、同居していないものの2倍である。二世帯家族の良い点として、「家事分担の点から」とか「病気になったときの看護の点から」をあげ、お互いに助け合えることを窺わせている。また一面、子どもの立場からでは、別居志向であるにも関わらず、自分が親になったときには、子どもと同居したいという矛盾した点が見られる。これも、二世帯家

族の良くない点として、「生活時間の差が生じやすい」とか「考え方の差が生じやすい」点をあげ、若い間は特に、自分の生活リズムに重点を置くからであろう。

これらのことを踏まえ、今後の家庭科教育では、老人に接する機会を増やすため、ホームページ等課題研究の機会を積極的に取り入れたい。

また、それぞれの家庭には家庭の事情があることを考え、自分の家庭に自信を持てるような生き方を見つけ出せるようにしていきたい。

この度は、アンケート調査の中で、祖父母と食生活との関わりや住生活との関わりについてまとめるところまでできていないので、引続きこれらの点をまとめ、各領域での教材化を実施したい。

*最後に、本研究のためのアンケートのデータ処理に際し、ご援助下さいました広島大学教育学部助教授の福田公子先生と岡本祐子先生に深く感謝いたします。

内容	尺度				
	かなり強まる 1	やや強まる 2	ほぼ同じ 3	やや弱まる 4	かなり弱まる 5
子どものしつけ養育の機能	3.04				
高齢者等の介護機能	2.39				
余暇・休養など安らぎを得る機能	2.55				
世代間の知識・伝統の伝承の機能	3.73				
食事・洗たくなどの家事機能	3.11				
子どもの人数の増減	3.80				

図5 家族の機能の変化

◆引用資料

- 1) 総務庁発表「高齢者統計」1991年9月14日
- 2) 総務庁発表「老人の生活と意識に関する国際比較調査」1991年9月15日
- 3) 小林京子・宮池允子：高齢化社会に対応する教育内容とその教材化の試み
——老人の食生活—— 中等教育研究紀要 第28巻 広島大学附属福山中・高等学校

◆参考文献

- *松岡明子：「家族関係の動向」家庭科教育 3月臨時増刊 66巻4号 家政教育社
- *野田陽子：「老人問題の動向」家庭科教育 3月臨時増刊 66巻4号 家政教育社
- *中間美砂子：「高齢者の家族関係」家庭科教育 9月 64巻11号 家政教育社
- *中間美砂子：「高齢化社会と家族」家庭科教育 11月臨時増刊 66巻14号 家政教育社
- *文部省：中学校学習指導要領 平成元年3月
- *文部省：高等学校学習指導要領 平成元年3月

「高齢化社会」に関するアンケート

現在日本は、急速なスピードで人口の老齢化に向かっています。人は一生の間に3つの老後（祖父母の老後、父母の老後、自分の老後）に出会うと言われていています。そこで、家庭科の授業の中でも老後の生活について取り上げ、一緒に考えてみたいと思います。そういった学習を深めていくための参考にしたいと思いますので、あなたの率直な意見を聞かせて下さい。

この調査内容及び結果は、家庭科の授業・研究のためのものです。プライバシーの尊重には十分気をつけます。質問によって、答えにくいものには答えなくてもよろしい。

() 年 (男 ・ 女)

1. 現在のあなたの家族構成について答えて下さい。

(1) 家族数はあなたも含めて何人ですか。() 人

(2) あなたは兄弟姉妹のうちどの立場ですか。あてはまるものに○印をつけて下さい。

ア、1人っ子 イ、一番上 ウ、一番下 エ、一番上でも下でもなく間

2. あなたの祖父母についてあてはまるものを枠内から選び、それぞれ記号で答えて下さい。

(1) 父方の祖父 () (3) 母方の祖父 ()

(2) 父方の祖母 () (4) 母方の祖母 ()

ア、現在は亡くなっている

イ、健康である

ウ、病気で入院中

エ、病気で自宅療養中

オ、わからない (知らない)

3. 「老人」という言葉から受けるあなたのイメージ、又は老人に対するあなたの気持ちについて、次の各項目において、該当する尺度に○印をつけて下さい。

どちらともいえない

明るい

暗い

健康

不健康

活動的

非活動的

やさしい

きびしい

知識が豊富

知らないことが多い

一緒にいて楽しい

一緒にいても楽しくない

話が合う

話が合わない

4. 老人とあなたとの関わりについて答えて下さい。

(1) 祖父母との関わりで、枠内の項目のうち、該当するものを選んで記号で答えて下さい。該当

するものがない場合には、その他として具体的に答えて下さい。

- ① 父方の祖父 () その他 ()
 ② 父方の祖母 () その他 ()
 ③ 母方の祖父 () その他 ()
 ④ 母方の祖母 () その他 ()

☆☆現在の時点を中心に考えて答えて下さい☆☆
 ア、同居している（同居していたが今は亡くなっている）
 イ、近所に住んでいる。会おうと思えばいつでも会える。
 ウ、1年に1，2度会う程度である。
 エ、会ったり、話したりしたことはあまりない。
 オ、自分が生まれる前に亡くなっている。

(2) 祖父母からしてもらったことで、該当するものを選んで記号で答えて下さい。該当するものがない場合には、「その他」として具体的に答えて下さい。項目は () 内に、回数は [] 内に記入して下さい。

- ① 父方の祖父 () その他 () []
 ② 父方の祖母 () その他 () []
 ③ 母方の祖父 () その他 () []
 ④ 母方の祖母 () その他 () []

ア、お年玉・おこづかいをよくもらう (もらっていた)
 項 イ、身の回りの世話をよくしてもらう (もらっていた)
 ウ、よそへ連れて行ってもらう (もらっていた)
 目 エ、病気の時、看病してもらった
 オ、一緒に遊んでもらった。

a、たびたび
 回 b、ときどき
 c、わずか
 数 数回程度

(3) 祖父母にしてあげたことで、該当するものを選んで記号で答えて下さい。該当するものがない場合には、「その他」として具体的に答えて下さい。項目は () 内に、回数は [] 内に記入して下さい。

- ① 父方の祖父 () その他 () []
 ② 父方の祖母 () その他 () []
 ③ 母方の祖父 () その他 () []
 ④ 母方の祖母 () その他 () []

	ア、プレゼントしてあげる（したことがある）
	イ、手伝いや肩たたきしてあげる（したことがある）
項	ウ、看護や身の回りの世話をしてあげる（したことがある）
	エ、買物や散歩のおともをする（したことがある）
目	オ、食事作りやふとんのあげおろしをしてあげる（したことがある）

	a、たびたび
回	b、ときどき
数	c、わずか 数回程度

(4) 祖父母に対するあなたの気持ちで該当するものに○印をつけてみて下さい。

- ア、自分にとって大切な人で長生きして欲しい
- イ、祖父母とはぜひ同居したい
- ウ、自分との関わりが少ないので深く考えたことがない
- エ、祖父母とは同居したいとは思わない
- オ、祖父母のことは親（祖父母の子）が考えることで関わりたくない
- カ、その他（ ）

(5) 祖父母以外の老人と接する機会がありますか。該当するものに○印をつけて下さい。

- ア、よくある \longrightarrow どういうことで接しますか。具体的に書いて下さい。
- イ、ときどきある \nearrow ()
- ウ、あまりない
- エ、全くない

5. 両親との同居・別居について、あなたの考えに近いところに○印をつけて下さい。

(1) <u>自分の立場で考えたとき</u>	親と同居したい わからない 親とは別居したい
ア、社会人であるが、結婚していないとき	_____
イ、結婚して、子どもがいなかったとき	_____
ウ、結婚し、子どもが生まれてから	_____
(2) <u>親はどう考えていると思うか</u>	子供と同居したい わからない 子供とは別居したい
ア、親が健康なとき	_____
イ、親が病気になったとき	_____
ウ、親の一方が亡くなり、1人になったとき	_____
(3) <u>自分が親になったとき</u>	子供と同居したい わからない 子供とは別居したい
ア、自分たちが健康なとき	_____
イ、自分たちが病気がちになったとき	_____
ウ、自分の配偶者が亡くなり1人になったとき	_____

6. 「しあわせな老後」とは、どんなものだと思いますか。次の項目の中からあなたの考えに最も

近いものを1つ選び、○印をつけて下さい。

ア、趣味を楽しみながらゆうゆうと暮らすことである。

イ、健康であることである。

ウ、子供や孫たちと一緒に暮らすことである。

エ、自由に使えるお金がたくさんあることである。

オ、生きがいや何かする仕事を持っていることである。

カ、その他 ()

7. あなたは、今10万円もらったとしたらどう使いますか。次の項目の中から1つ選び、○印をつけて下さい。

ア、何かしたいことがある（例えば、冬にスキーに行きたい）ので使わないでとっておく。

イ、前から欲しかった物があるのでそれを買う。

ウ、全部貯金をしておいて、大きくまとめて使う（例えば海外旅行など）。

エ、半分は貯金して、半分は欲しいものを買う。

オ、気分をスカーッとさせたいから、豪勢にパーッと使う。

8. あなたの家の食生活について答えて下さい。

(1) つぎのそれぞれの項目について、該当するものを枠内から選び、記号で答えて下さい。「その他」の場合は具体的に答えて下さい。

①食事の準備は主に誰がしていますか。 () その他 ()

②食事後片付けは主に誰がしていますか。 () その他 ()

③食料品の購入は主に誰がしていますか。 () その他 ()

ア、祖父	イ、祖母	ウ、父	エ、母	オ、自分	カ、その他
------	------	-----	-----	------	-------

(2) 夕食のおかずはどんなものが多いですか。それぞれの項目内で比較的多いものの方に○印をつけて下さい。

① (ア、和風 ② (ア、魚料理 ③ (ア、野菜の煮物 ④ (ア、あっさりしたもの
イ、洋風 イ、肉料理 イ、野菜サラダ イ、あぶらっこいもの

⑤ (ア、手作りのもの
イ、加工食品を利用したもの

(3) 次にあげる事項の中で、あなたの家庭で食事のメニューを考えるときに注意していること（または、注意していると考えられること）全てに○印をつけて下さい。

ア、塩分をとりすぎないようにしている。 イ、糖分をとりすぎないようにしている。

ウ、脂肪をとりすぎないようにしている。 エ、野菜を多くとるようにしている。

オ、カルシウムが不足しないようにしている。 カ、たんぱく質が不足しないようにしている。

キ、ビタミンDが不足しないようにしている。 ク、子供の好みを生かすようにしている。

ケ、親の好みを生かすようにしている。 コ、祖父母の好みを生かすようにしている。

サ、祖父母用に柔らかくしあげるなど、区別して準備している。

シ、その他 ()

(4) 夕食は誰と一緒に食べることが多いですか。一緒に食べる人全てに○印をつけて下さい。

ア、祖父 イ、祖母 ウ、父 エ、母 オ、兄弟姉妹 カ、自分1人

キ、その他 ()

9. 核家族化の進行、女性の就業率の高まりに伴って、家族の機能は変化しつつあります。2040年頃（今から約50年後）は現在と比べてどのように変化していくと思いますか。該当する尺度のところ○印をつけて下さい。

	かなり強まる	やや強まる	現状とほぼ同じ	やや弱まる	かなり弱まる
①子供のしつけ・養育の機能	_____				
②高齢者等の介護機能	_____				
③余暇・休養などの安らぎを得る機能	_____				
④世代間の知識・伝統の伝承機能	_____				
⑤食事・せんたくなどの家事機能	_____				
⑥生殖機能（子供の人数の増減）	_____				

10. 二世帯住宅についてどう思いますか。あなたの考えにあてはまるものに○印をつけて下さい。

ア、玄関・台所・浴室など共同施設設備は1つである。

イ、玄関・台所・浴室など共同施設設備は独立している。→

ウ、イ、のように独立しているが、1週間に1～2度は一緒に食事をする。→

エ、その他 ()

独立していた方がよい場所は a、台所 b、玄関 c、浴室 d、便所 e、居間 f、その他 ()

11. 次の項目の中で、二世帯家族であるからよい（概してよい）と思われる項目には○印を、よくない（概してよくない）と思われる項目には△印をつけてみて下さい。

- () ①家事の分担の点から
- () ②伝統的な知識の伝達の点から
- () ③食べ物の好みが変化に富む
- () ④生活時間の差が生じやすい
- () ⑤年齢的に考え方の差が起こりやすい
- () ⑥病気になったときの看護の点から
- () ⑦自分の気持ち・感情の抑制
- ⑧「その他」二世帯家族であるとよい点があればあげて下さい。
- ⑨「その他」二世帯家族であるとよくない点があればあげて下さい。

**** ご協力ありがとうございました！！**